

## 2023 年度 人間科学部 A0 入試 小論文問題

次の文章を読み、問いに答えなさい。

コロナ禍が日本の組織、日本人の働き方に与えた影響は衝撃的だった。新型コロナウイルスは組織の壁、そして旧来の秩序まで破壊する。「密」を許さない新型コロナウイルスの性質により、ピラミッド型の閉ざされた組織が機能しなくなった。代わって主役に躍り出ようとするのがテレワークという働き方、ネットワーク型の組織である。

タテのピラミッドからヨコのネットワークへ。それは同調圧力を語るうえでも象徴的な変化である。

この数年、同調圧力の風向きが少し変わってきたと感じている人が少なくないのではなかろうか。

象徴的な例が東京五輪をめぐる世論の変化である。誘致から開催準備まで国や東京都などの体制主導で進められ、国民一丸で大会を盛り上げようという機運に水を差す余地はなかった。ところがコロナ禍で世論は一変し、開催に反対する声が支配的になった。SNS 上では五輪出場が決まっている選手に対して、出場辞退を促すメッセージが送られ、選手を困惑させる事態もあった。

そして国民にワクチンが行き渡らない中で選手に優先接種することへの批判が強まり、国民にしわ寄せが生じない別枠による接種でも「不公平だ」「選手と国民の一体感が損なわれる」といった声がネットの世界を席卷した。要するに日本という共同体の同調圧力は変わらない中で、圧力の方向がタテからヨコへ変化したのである。

変化の兆しはコロナ禍以前から、私たちの身近なところでもすでにあらわれていた。

近年、職場で上司が部下を飲みを誘うことはめっきり少なくなった。上司に中元や歳暮を贈る習慣も消えた。私生活でも結婚式を挙げないカップルが増えているし、葬儀も家族葬が急速に広がり、結婚式や葬式に職場関係者が参列する光景はほとんど目にしなくなった。それだけ職場共同体の中での序列と「囲い込む力」が弱まったことをあらわしている。

またコロナ禍で大小のスポーツ大会、地域の祭りや各種イベントが軒並み中止された背景にも、ある変化が読み取れる。まるでドミノ倒しのような中止の連鎖については、中止せざるをえない同調圧力のあらわれととらえる人が多い。そもそも一つの方向へいっせいになびかせるのが同調圧力の性質だからである。

しかし中止を決定した当事者の周辺からは、それと違った声も漏れ聞かれる。これまで組織による無言の圧力のもとで中止や簡素化の声を上げづらかったが、コロナ禍を理由に堂々と言えるようになったというのだ。つまり新型コロナウイルスの蔓延を防ぐという大義名分が、タテ方向の同調圧力を弱める大きな力になったわけである。

無際限の貢献を求める企業組織にしても、家父長主義の経営にしても、背後には制度化された序列やルールがあった。企業不祥事やパワハラも上下の力関係の中で起きている。つまり、そこにはタテの同調圧力が強く働いているのだ。

しかし徐々にその弊害が指摘され、被害者は声を上げるようになった。マスコミの力を借りながら世論もそれに呼応して盛り上がり、過剰な同調圧力にブレーキがかかり始めた。

出典：太田 肇『同調圧力の正体』、PHP 新書、2021 年。出題のため一部改変。

問 1 本文を要約しなさい。(100 字以内)

問 2 本文の内容についてあなたが思うところを述べなさい。(800 字以内)

以上